

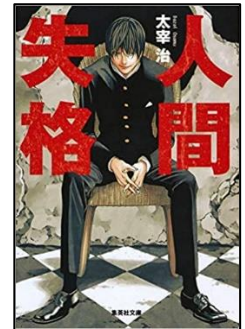
約 140 字の読書界 [読書週間特別号②]

藤高教員の「高校生に読んで欲しい／高校生におすすめ」本

1 書名：人間失格 [藤高蔵書 ○]
著者：太宰 治 (だざい おさむ)
発行：集英社文庫

理科 石田奈々絵 先生

受験勉強にも高校生活にもなんだか人生にすら、少々虚しく鬱を感じていた高校3年の夏、私は初めて教科書以外の太宰を知りました。自伝的な小説です。十代のうちに読んでおき、大人になって読み返してみるのがおすすめです（私は先日再読し、高校時代に読んだ感覚との違いに愕然となりました）。



2 書名：カラフル [藤高蔵書 ○]
著者：森 絵都 (もり えと)
発行：文春文庫

理科 大森ひかる 先生

「おめでとうございます、抽選に当たりました！」と、天使が僕に話しかけてきた。どうやら僕は大きな過ちを犯して死んだらしい。でも運良く当選したおかげで、僕の魂はもう一度だけ再挑戦させてもらえるようだ。ただし条件が1つ、自分の罪を思い出すこと…。作者が『カラフル』というタイトルをつけた理由を、本編を読んで是非考えてみてください。



3 書名：容疑者Xの献身 [藤高蔵書 ○]
著者：東野圭吾 (ひがしの けいご)
発行：文藝春秋

数学科 小松勇二 先生

「四色問題は証明された。すべての地図は四色で塗り分けられる」「 $P \neq NP$ 問題というのは当然知っているよな」「リーマン予想の反証を試みているわけか」主人公の物理学者湯川と数学教師石神との会話の一部。こんな数学の話題をちりばめるあたり、さすが理系出身の東野圭吾。ストーリーも◎。数学教師石神の純粹な愛を感じてみて。



4 書名：萬葉集抜書 [藤高蔵書 ○]
著者：佐竹昭宏 (さたけ あきひろ)
発行：岩波現代文庫

国語科 中川和也 先生

あえて専門書を。佐竹昭宏は知の巨人。本書「意味変化について」という章は京大2018年入試の素材文。やっぱり大学は本物の文章を選ぶ。「見ゆ」の世界という章がオススメ。古代日本人の認識の有り様を、哲学や心理学の知見と絡めつつコト深掘り。…知の世界は奥深い。

